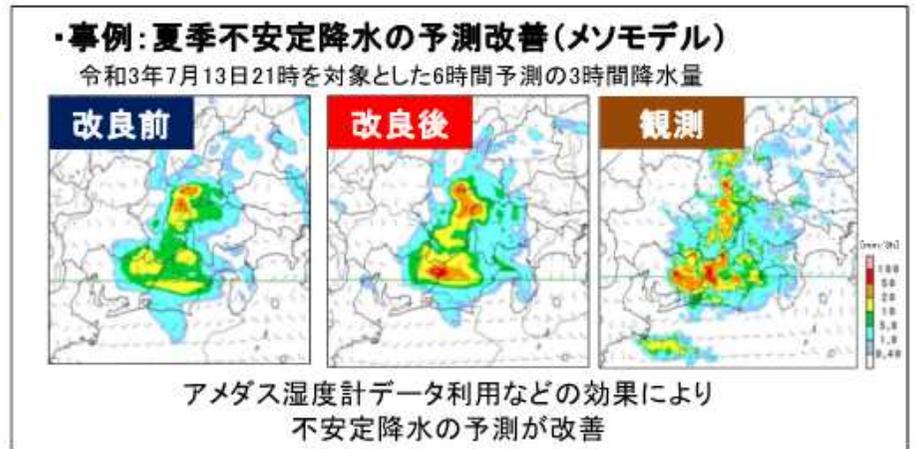
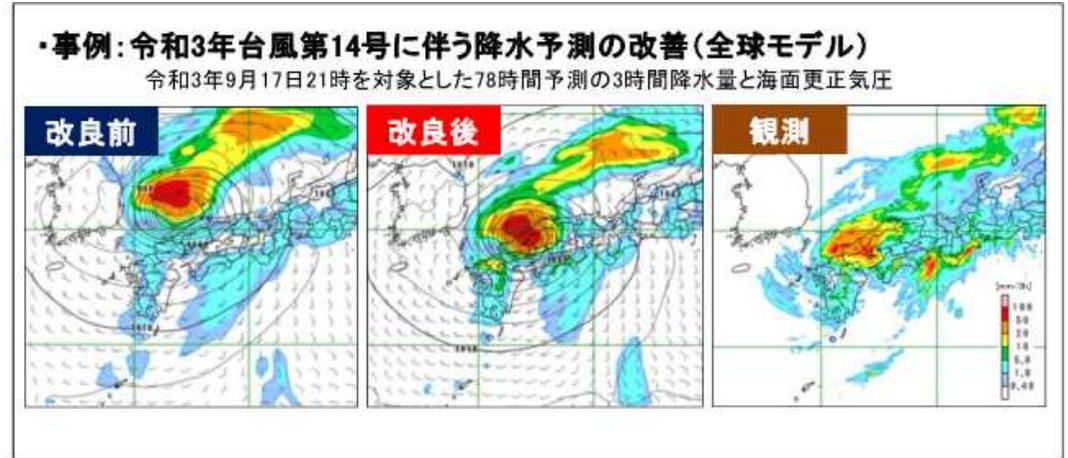
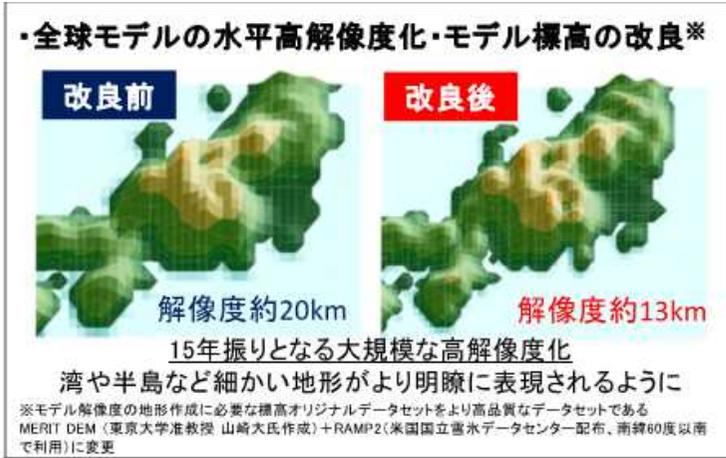


# 気象台からの情報提供

# 降水予測の精度を改善します ~数値予報モデルの改良、線状降水帯予測スーパーコンピュータの稼働~

- 数値予報モデルの改良や観測の強化を行うことで、台風や前線に伴う降水の予測精度の向上を達成。線状降水帯予測の精度向上に向けて、スーパーコンピュータ「富岳」の技術を活用した線状降水帯予測スーパーコンピュータを稼働開始している。



これまで「顕著な大雨に関する気象情報」は、発表基準を実況で満たした場合に発表を行っていたが、「危険度の高まり」を少しでも早く伝えることができるよう、予測技術を活用し、今後は、これまでより最大30分程度早く発表する。

## 現行の顕著な大雨に関する気象情報の発表基準

- ① 解析雨量（5kmメッシュ）において前3時間積算降水量が100mm以上の分布域の面積が500km<sup>2</sup>以上
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキクルにおいて土砂災害警戒情報の基準を実況で超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクルにおいて警報基準を大きく超過した基準を実況で超過

## 新しい顕著な大雨に関する気象情報の発表基準

現在から30分先までに、以下の基準を満たす場合に発表。

- ① 前3時間積算降水量（5kmメッシュ）が100mm以上の分布域の面積が500km<sup>2</sup>以上
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキクルにおいて土砂災害警戒情報の基準を超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクルにおいて警報基準を大きく超過した基準を超過

## 情報の改善

令和3(2021)年

線状降水帯の発生をお知らせする情報  
(6/17提供開始)



線状降水帯の雨域を楕円で表示

「**明るいうちから早めの避難**」・・・段階的に**対象地域を狭めていく**

令和4(2022)年～

広域で半日前から予測

令和6(2024)年～

県単位で半日前から予測

令和11(2029)年～

市町村単位で危険度の把握が可能な危険度分布形式の情報を半日前から提供

今回の新たな運用

令和5(2023)年～

最大30分程度早く発表

令和8(2026)年～

2～3時間前を目標に発表

・線状降水帯による大雨の可能性をお伝え

・線状降水帯の雨域を表示

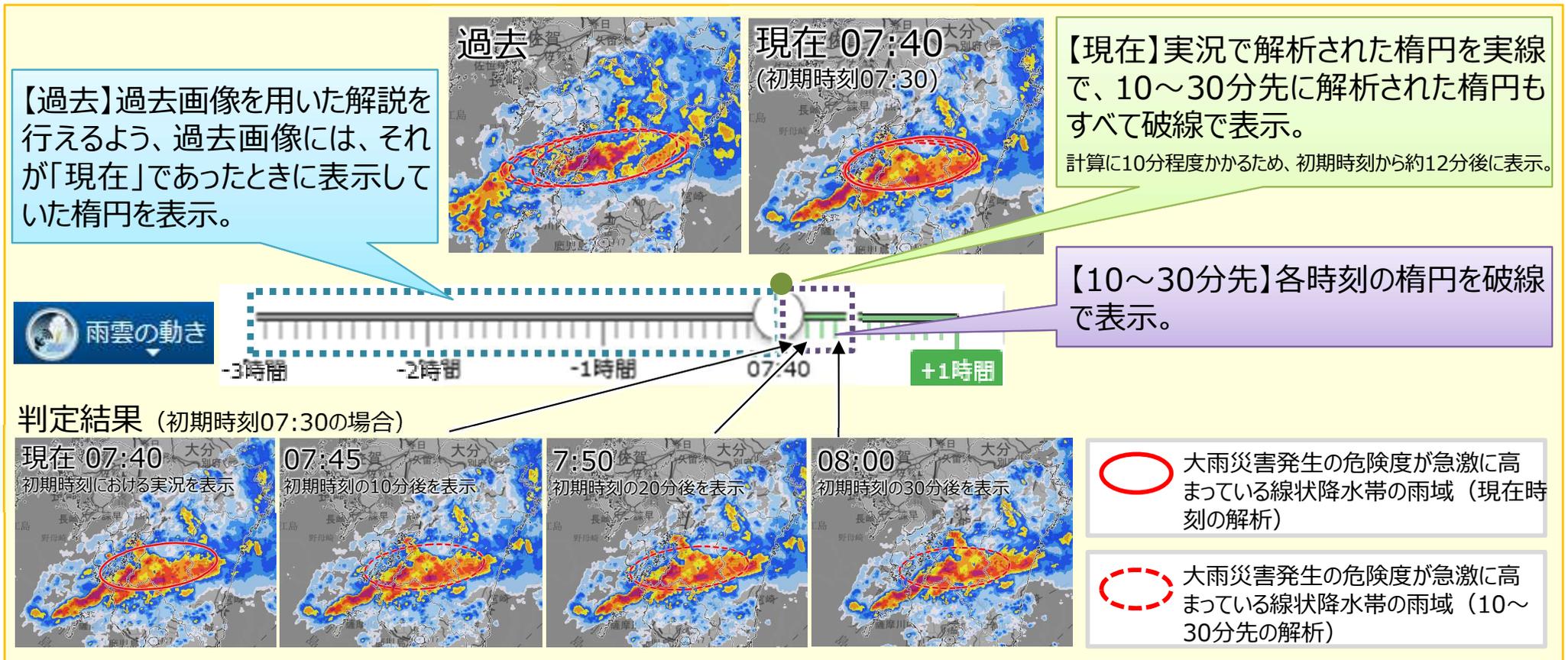
「**迫りくる危険から直ちに避難**」・・・段階的に**予測時間を延ばしていく**

※具体的な情報発信のあり方や避難計画等への活用方法について、情報の精度を踏まえつつ有識者等の意見を踏まえ検討

# 顕著な大雨に関する気象情報の新運用におけるHP表示

## 気象庁HPの表示

- 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表条件に達した地域を地図上で大まかに把握できるように、気象庁HPの「雨雲の動き」、「今後の雨」の地図上に赤楕円で表示する。



- 「顕著な大雨に関する気象情報」が発表されたとき、どの領域で発表条件を満たしているのか、ひと目で分かる表示とする。
- 時間とともに消えてしまわないよう、表示期間の範囲内では、過去に遡って確認できるようにする。
- 30分先まで発表基準を満たした地域を表示しており、線状降水帯の「継続」や「終了」を予測するものではない。
- 解説しやすさのため、「現在」及び「過去」では、実況で解析された楕円のみ表示するボタンを新設